

LESSON NOTES

Advanced Audio Blog S3 #4 Techno Artist: Underworld

CONTENTS

- 2 Kanji
- 2 Kana
- 3 Romanization
- 4 English
- 5 Vocabulary
- 6 Sample Sentences
- 7 Vocabulary Phrase Usage
- 8 Grammar

4

KANJI

1. アンダーワールド
2. イギリスのアンダーワールドという世界的なテクノのアーティストをご存知だろうか？
3. 代表曲として、映画トレインスポッティングの主題歌にもなったボーンスリッピーという曲がある。
4. 私はかれこれ10年来の彼らの大ファンで、来日の際には何度かライブへ出かけた。
5. 今から2年前、忘れもしないが、そのボーカルであるカールハイドが私が運営していたお店をインタビューの取材場所として利用したのである。
6. これには本当に興奮したが、もっと驚いたことは、彼は世界的大スターであるにもかかわらず、実に気さくな普通な感じの人だった事だ。
7. ジーパンにTシャツ、何の飾り気もない出で立ちで、これが本当にあのカールハイドか、と疑いたくなるような気がしてしまうほどだったが、そのナチュラルさこそが彼の魅力なのかもしれない。
8. そうしてその後、彼はごく当たり前のお客さんのように合計3回もお店に遊びに来てくれた。
9. 今思えば夢か幻のような気がするが、確かに彼は席に座って、ドリンクを飲み、ナイスカフェと何度も褒め称えてくれていた。
10. 気取らないその優しさが彼の素晴らしさを物語っていたように思う。
11. カール、良い思い出をありがとう！

KANA

CONT'D OVER

1. アンダーワールド
2. イギリスのアンダーワールドというせかいてきなテクノのアーティストをごぞんじだろうか？
3. だいひょうきょくとして、えいがトレインスポッティングのしゅだいかにもなったボーンスリッピーというきょくがある。
4. わたしはかれこれ10ねんらいのかれらのだいファンで、らいにちのさいにはなんどかライブへでかけた。
5. いまから2ねんまえ、わすれもしないが、そのボーカルであるカールハイドがわたしがうんえいしていたおみせをインタビューのしゅざいばしょとしてりようしたのである。
6. これにはほんとうにこうふんしたが、もっとおどろいたことは、かれはせかいてきだいスターであるにもかかわらず、じつにきさくなふつうなかんじのひとだったことだ。
7. ジーパンにTシャツ、なんのかざりきもないいでたちで、これがほんとうにあのカールハイドか、とうたがいたくなるようなきがしてしまうほどだったが、そのナチュラルさこそがかれのみりよくなのかもしれない。
8. そうしてそのご、かれはごくあたりまえのおきゃくさんのようにごうけい3かいもおみせにあそびにきてくれた。
9. いまおもえばゆめかまぼろしのようなきがするが、たしかにかれはせきにすわって、ドリンクをのみ、ナイスカフェとなんどもほめたたえてくれていた。
10. きどらないそのやさしさがかれのすばらしさをものがたっていたようにおもう。
11. カール、いいおもいでをありがとう！

ROMANIZATION

CONT'D OVER

1. Andāwārudo
2. Igrisu no Andāwārudo to iu sekaiteki na tekuno no ātisuto o go-zonji darō ka?
3. Daihyōkyoku to shite, eiga Torein Supottingu no shudaika ni mo natta Bōn surippī to iu kyoku ga aru.
4. Watashi wa karekore 10-nen rai no karera no daifan de, rainichi no sai ni wa nan-do ka raibu e dekaketa.
5. Ima kara 2-nen mae, wasure mo shinai ga, sono bōkaru de aru Kāru Haido ga watashi ga un'ei shite ita o-mise o intabyū no shuzai basho to shite riyō shita no de aru.
6. Kore ni wa hontō ni kōfun shita ga, motto odoraita koto wa, kare wa sekaiteki dai sutā de aru ni mo kakawarazu, jitsu ni kisaku na futsū na kanji no hito datta koto da.
7. Jīpan ni tī shatsu, nan no kazarike mo nai idetachi de, kore ga hontō ni ano Kāru Haido ka, to utagaitaku naru yō na ki ga shite shimau hodo datta ga, sono nachurarusa koso ga kare no miryoku na no kamoshirenai.
8. Sōshite sono go kare wa goku atarimae no o-kyaku-san no yō ni gōkei 3-kai mo o-mise ni asobi ni kite kureta.
9. Ima omoeba yume ka maboroshi no yō na ki ga suru ga, tashika ni kare wa seki ni suwatte, dorinku o nomi, naisu kafe to nan-do mo hometataete kurete ita.
10. Kidoranai sono yasashisa ga kare no subarashisa o monogatatte ita yō ni omou.
11. Kāru, ii omoide o arigatō!

ENGLISH

1. Underworld

CONT'D OVER

2. Have you heard of the international British techno group Underworld?
3. Their signature track, "Born Slippy," is the theme song for the film "Trainspotting."
4. I'd been a huge fan of theirs for ten years already, and on coming to Japan, I went to my umpteenth Underworld gig.
5. Two years ago now - I'll never forget it - vocalist Karl Hyde used the cafe I was managing as the place for doing an interview.
6. I was obviously really excited about this, but what was even more surprising to me was the fact that in spite of his being a huge global star, he was actually a good-humored, regular guy.
7. Wearing jeans and a t-shirt, with absolutely no affectations, it was enough to make you doubt whether this was the real Karl Hyde, but I think it's maybe actually that very naturalness that was his charm.
8. And so from then on, just like a regular customer, he came to the cafe a total of three more times.
9. Thinking about it now it seems like a dream or an illusion, but yes, he did sit on a seat, order a drink, and admire the place, telling me however many times that I had a "nice cafe."
10. I think it was that unaffected kindness that indicated his true greatness.
11. Karl, thanks for the wonderful memories!

VOCABULARY

Kanji	Kana	Romaji	English
代表曲	だいひょうきょく	daihyōkyoku	representative song; signature track; masterpiece

主題歌	しゅだいか	shudaika	theme song
かれこれ	かれこれ	karekore	one thing or another
取材	しゅざい	shuzai	collecting information/data (eg. for a newspaper article); covering an event
気さく	きさく	kisaku	frank, good humored
魅力	みりよく	miryoku	charm, fascination
当たり前	あたりまえ	atarimae	no wonder, of course; usual, common, ordinary
幻	まぼろし	maboroshi	phantom, illusion; vision, dream
褒め称える	ほめたたえる	hometataeru	to admire, to praise

SAMPLE SENTENCES

<p>北島三郎の代表曲は「与作」です。 <i>Kitajima Saburō no daihyōkyoku wa "yosaku" desu.</i></p> <p>Saburo Kitajima's signature song is "Yosaku".</p>	<p>そのアニメの主題歌は耳に残る。 <i>Sono anime no shudaika wa mimi ni nokoru.</i></p> <p>The theme song of that anime is catchy.</p>
<p>大学を卒業してから、かれこれ6年たちま す。 <i>Daigaku o sotsugyō shite kara, karekore roku-nen tachimasu.</i></p> <p>Six years have somehow gone by since I graduated from university.</p>	<p>その事件を取材する。 <i>Sono jiken o shuzai suru.</i></p> <p>I will research the incident.</p>
<p>彼はとても気さくな人だ。 <i>Kare wa totemo kisaku na hito da.</i></p> <p>He's very good-humoured and friendly.</p>	<p>みんな、彼女の魅力に惹かれる。 <i>Minna kanojo no miryoku ni hikareru.</i></p> <p>Everyone is attracted by her charm.</p>

彼が怒るのは当たり前だ。
Kare ga okoru no wa atarimae da.
It's no wonder that he gets angry.

私は、亡くなった母の幻を見た。
Watashi wa, nakunatta haha no maboroshi o mita.
I saw a vision of my mother who passed away.

彼の努力は人々に褒め称えられた。
Kare no doryoku wa hitobito ni hometatae rareta.
His effort was praised by everyone.

VOCABULARY PHRASE USAGE

Here, we'll take a look some interesting words and phrases from the interview portion of this Audio Blog lesson.

● ~にあたって

「今回、このブログ、読むにあたって、ちょっと調べてみようと思って、Youtubeとかで聞いてみたんですね。」

「にあたって」 is a phrase that indicates the occasion of doing something or having done something. Take-san explains how he looked up the band Underworld on Youtube when it came time to do the reading of this particular blog.

● ~寄り

「僕いろんなバンド好きなんですけど、その、どっちかという僕ロック寄りだったんですね。」

「寄り」 is a phrase that means to "have a tendency towards". It can come directly after a noun. Here, Take-san used it to indicate that although he likes a lot of different kinds of bands, his preference tends to lean towards rock bands in particular.

● ~（と）までは行かない

「高村さんと同じような経験とまではいなくても(1)、たとえば何か、こう自分の好きな、まあスターまではいかない(2)ですけど、有名人と、こうニアミスしたとかそういう経験ってのはありますか。」

「X（と）までは行かない」 is a phrase that means "to not go as far as X". Here, Natsuko-san asks the listeners if they have ever had any near-misses with celebrities, even if their experience doesn't go as far as Mr. Takamura's did (1). Natsuko also uses the phrase again to clarify her question, saying the celebrities she is asking about don't necessarily have to be huge stars or anything (2).

● 影響を与える・受ける

「『あ、ここって少し影響受けたのかな』なんて思う部分もちよっとあったりして」
「その人の生き方とか考え方とかが影響を与えてくれる、それはすごく良い刺激になりますよねえ」

影響(えいきょう) means "influence" or "inspiration", and it is often paired with the verbs 与える (あたえる) and 受ける (うける). 「影響を与える」 means to "to effect" or "to be influential", and 「影響を受ける」 has the opposite meaning, which is to "be effected/influenced".

GRAMMAR

Audio Blog Season 3, Lesson 4 - アンダーワールド

Natsuko : こんにちは。なつこです。Audio Blog シーズン3 第4回「アンダーワールド」。今回も、児玉たけやさんと一緒に、このブログについてご紹介しましょう。たけさん、よろしくお願いします。

Take : こんにちは。児玉たけやです。よろしくお願いします。

Natsuko : さっそくですが、今回のブログは、イギリスの「アンダーワールド」というバンドについてなんです。たけさんはこのバンドは、ご存知ですか？

Take : 正直に言っていていいですか。。(笑)

Natsuko : もちろん!。。てことは・・・？

Take : 名前は知ってたんですけど、あんまり音楽、知らなかったんですよ。

Natsuko : あ、そうなんですか。

Take : はい。。。で、今回あの一、このブログ、読むにあたって、ちょっと調べてみようと思って、Youtubeとかで聞いてみたんですよ。

Natsuko : ええ。

Take : したら、二曲か三曲ぐらい「ああ、聞いたことあるな」っていうのは、あの一、あったんですよ。

Natsuko : さすがですねえ～。

Take : いやいやいや、普通知ってるんじゃない?! 笑

Natsuko : あら、すみません。。私も実は詳しくないんですけども。

Take : いやいや、わかんないけど。。

Natsuko : このブログを書いた高村さんは、このアンダーワールドというバンドの大ファンなんです。そして、今回のブログでは、その高村さんにとって、一生忘れられないような素敵な出来事が紹介されてます。では、さっそく、高村さんのブログを聞いてみましょう。

=====
ブログ本文
=====

Natsuko : 最後の、「カール、良い思い出をありがとう!」という文章、高村さんの感動がすごくよく伝わってきますね。

Take: 世界的な大スターというだけじゃなく、自分が大ファンで憧れている人ってというのがね、自分のお店に来てくれたら、感動しますよね。

Natsuko : いや、もうなんか、本当に興奮しちゃうと思うんですよねえ。

Take: あの~僕いろんなバンド好きなんですけど、その、どっちかというと僕ロック寄りだったんです。んで、アンダーワールドっていうのが、ちょっとこうテクノな感じなんです。で、そのテクノという意味で言うと、僕あの、日本の誇るテクノ「イエローマジックオーケストラ」の大ファンだったんです。

Natsuko : ああああ、はいはい。

Take : うん、で、そのアンダーワールドやっぱり聞いてみて、その一、現代的なテクノと、YMO、イエローマジックオーケストラって80年代ですから、その古い音のテクノってのはもちろん全然違うんですけども。なんかベースに流れてるのがたまーに、たまーにですけど、こうちょっと「あ、ここって少し影響受けたのかな」なんて思う部分もちょっとあったりして、結構その辺は面白いなあと思って。

Natsuko : なるほど~。しかも、このブログによると、取材で来た後に、またプライベートでも来てくれたんです。これは、もう、すごく認められたっていう感じがすると思いますよ。

Take: うん、もう、高村さんという存在をなんか認識してくれたっていう感じですよ。ね。

Natsuko : そうですよ。ねえ~。

Take: あの、「夢か幻のような気がする」って、言っていましたけど、なんかその気持ち、分るなあ。

Natsuko :

高村さんと同じような経験とまではいなくても、たとえば何か、こう自分の好きな、まあスターまではいかないですけど、有名人と、こうニアミスしたとかそういう経験ってのはありますか。

Take: うん、あんまり詳しくは言えないんですけど、ちょっとあります。

Natsuko: ん、あ、そうなんですか?!

Take: あのー、ただ、僕がそんなにファンじゃないので、あのー、こう、友達に話すと羨ましがられたりはするんですけども。あのー、ま、僕が大好きなアーティストとはお知り合いになる機会はなかなかなかったですね。

Natsuko: ああ、そうですか。

Take: 残念なんですけど。

Natsuko: じゃ、まあそれとは別に、別のジャンルの人と何かこうちょっと接触があつて、

Take: あ、そうですねえ。そういうのがあつたりっていうのは、あのー、過去にはちょっとありますね。

Natsuko: なるほど。そう、私の場合は、あのー、自分がすごくあこがれている人と、こう、接触する機会があつたっていうのは、実はあの、マラソンの、あのオリンピックの金メダリストの高橋尚子さん、Qちゃんと言われてるんですけど。彼女と同じマラソン大会を走ったことがあります。いや、彼女は選手として出てたんではなくて、ゲストだったんですね。で、スターターを務めて、で、「皆さん頑張ってください!」とか、スタート台で手を振ってくれたんですけど。そのあと、なんと、あのー、一番後ろのランナーがスタートした後から、Qちゃんは最後にスタートして、最後尾からダァーッと皆を抜いて行って、応援しながら、こう、駆け抜けていってくれたんですよ。私、あの、高橋尚子さんに抜かれた瞬間、「あ、マラソンやっててよかった!」て思いましたね。

Take: はあ、なるほどね!

Natsuko: カッコよかったです!

Take: なかなか、できないっすよね。後ろから抜かれて行くっていうのは。

Natsuko: できないですよ! あのー、すごく、こう、手を振りながらにこやかに走ってたんですけど、物凄く速かったです。

Take: んん~なるほどな。はあ、それ良い経験ですね。

Natsuko : なんかこう、頑張れましたね。まあ、そういう風に、あの、ジャンルは問わず、やっぱり誰か自分にとって憧れの人があって、その人の、あの、生き方とか考え方が影響を与えてくれる、それはすごく良い刺激になりますよねえ。

Take: そうですね。なんか、こう、生きる気力が沸いてくるというか、元気になるというか。

Natsuko : そうなんですよね。あの、それを支えに頑張れるなんていう時がありますよね。

Take: ありますねえ。

Natsuko : だからこの、高村さんの経験は私もすごく羨ましいなと思います。

Take: そうですねえ～！

Natsuko : 皆さんは、誰かのファンだったりしますか？で、その憧れのスターとの素敵な思い出をお持ちだったりしませんか？もしあったら、ぜひわたし達に教えてください。楽しみにしています。それでは、皆さん、今回はこの辺で。次回をお楽しみに。

Take: それじゃ、また。